

触媒技術研究組合（略称：REACT）の概要

設立年月日：平成21年3月27日

理事長：小川育三（住友化学（株） 常務執行役員）

組合員：出光興産(株)、(株)エプシロン、トヨタ自動車(株)、日揮プラントイノベーション(株)、
昭和電工(株)、住友化学(株)、三井化学(株)、東洋エンジニアリング(株)

【8企業】

事業費：平成26年度 5百万円

事業の概要：基礎化学品の触媒及び触媒反応プロセスに関する技術の試験研究。

○組合設立の目的

基礎化学品に関する新たな触媒及び触媒反応プロセスの開発のためには、各社が個別に保有する技術及び新たに共同開発する技術を統合し、最適化することが必要であり、本分野での技術を有する企業が協同して研究開発を推進し、実用化を促進する。

○実用化の方向性

★ナフサ接触分解の実用化の方向性

100万トンナフサ処理プラント新設で既存熱分解比100億円/年のメリット、また国内熱分解プロセスの約1/7を本技術に置き換えることで18万トン/年のCO2削減、ナフサ70万トン/年の省資源に貢献する。

★バイオプロピレン製造の実用化の方向性

- ・ 既存の石油系PPを置き換えていくことでCO2削減（-328万トン/年、PP100万トン代替想定）に貢献する。

○事業化の目途の時期

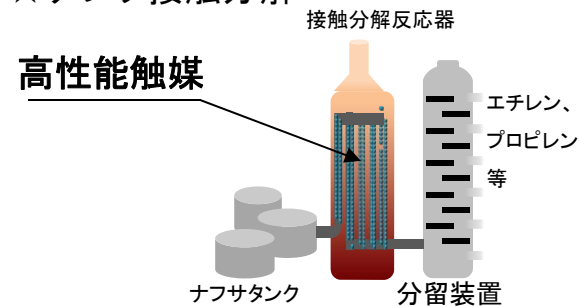
★ナフサ接触分解

- ・ 2020年以降

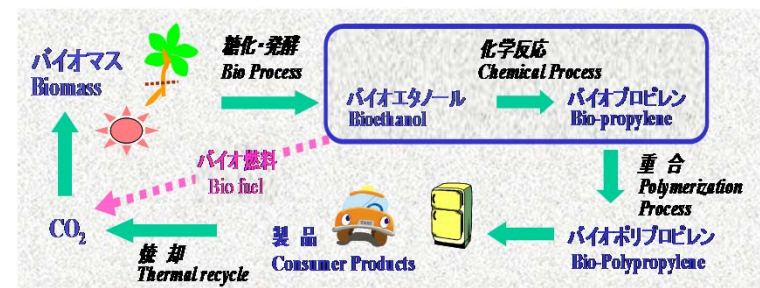
★バイオプロピレン製造

- ・ 2020年以降

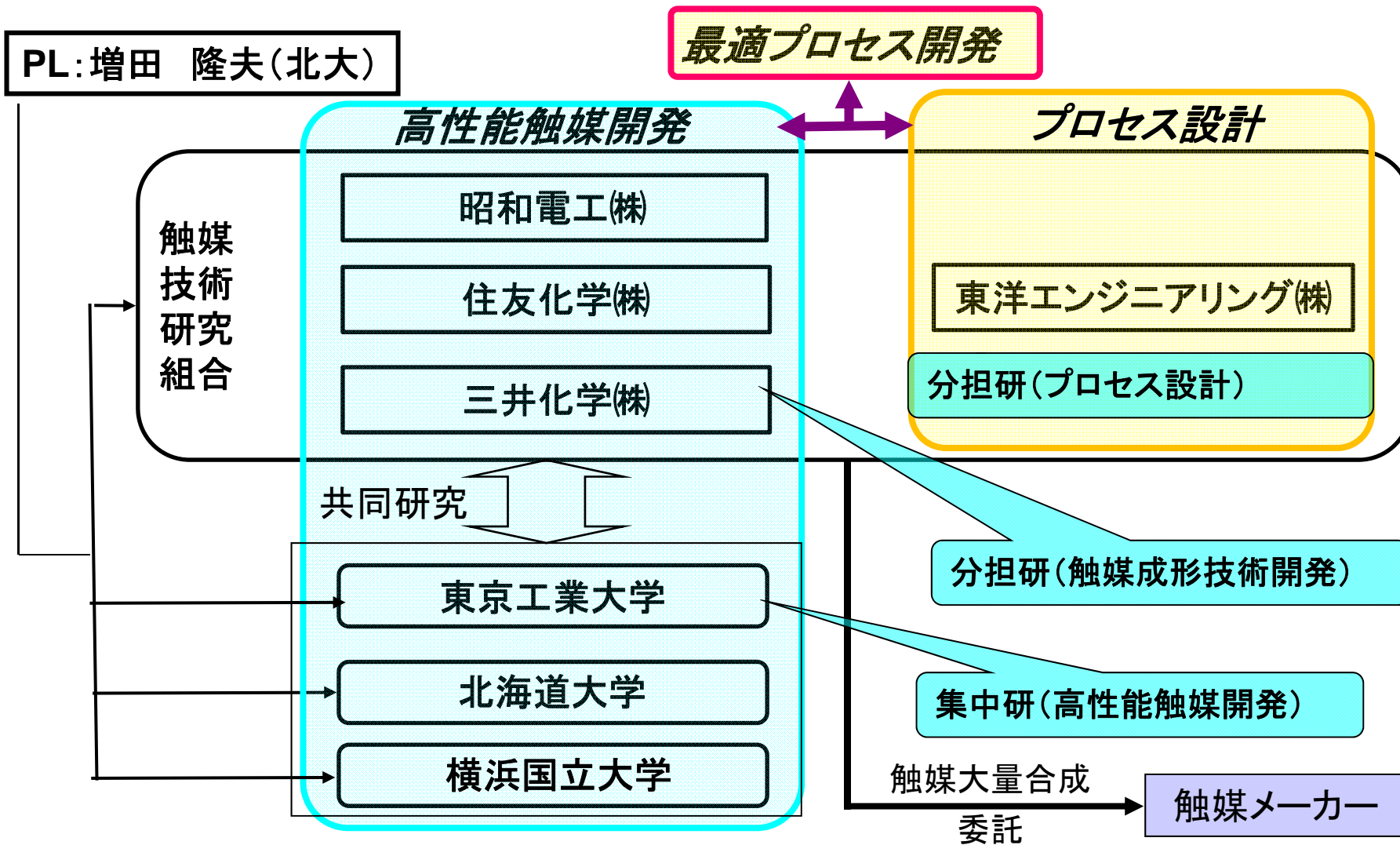
★ナフサ接触分解



★バイオプロピレン製造



● 研究開発体制(ナフサ接触分解)



● 研究開発体制(バイオプレピレン製造)

